

2022年 あけまして おめでとうございます



今年も、みなさんの声をしっかり受け止め市政に届けます

くらしと平和・環境を守ることを 大きなテーマに



昨年は、1年を通しコロナの影響で、交流の場が減り、暮らし・経済の冷え込みなど、様々な形での市民の苦境がありました。市民の苦難をどう解決するのか、議会もコロナへの対応が中心課題でした。しかし熊本市は、コロナ対応は国任せの一方で、花畑広場・辛島公園整備等 23 億円、市役所建替 400 億円など、開発・ハコモノムダづかいの姿勢を続けています。

「高い国保・介護の負担軽減を」「コロナによる収入減への支援を」
2022 年も、このような切実な声にしっかり応えていきたいと思えます。

そんな中、今年の春は、娘にもう一人孫が誕生するといううれしいニュースがあります。新しい命の誕生は「希望」です。子どもや孫たちのため、かけがえのない平和や地球環境を守ることも、私の大きなテーマです。

みなさんの率直なご意見、お気軽にお寄せください！

☎ 096-328-2656 (F)359-5047

日本共産党
熊本市議会だより

熊本市中央区手取本町 1-1
発行：日本共産党熊本市議

NO. 1264
2022年1月2・9日合同号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団



一人の千歩より千人の一步



昨年は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、尊い命が多く失われ、暮らしや経営そのものが危機に直面する一年となりました。また、岸田内閣のもとで、外国に対する敵基地攻撃を容認する動きや憲法審査会による改憲論議が始まるなど、平和を脅かす動きも総選挙後加速しています。気候変動への対応なども含め、解決しなければならない課題が山積しています。このような状況に、不安をお持ちの方も多いと思えます。

こんな時に、私が思い出すフレーズがあります。それは、故・板井優弁護士「一人の千歩より千人の一步」という言葉です。多くの人々と課題を共有し、一緒にたたかえば必ず展望は開けます。2022 年は、市民と野党の共闘をさらに躍進させる一年となるよう頑張る決意です。

弁護士による「無料法律相談」のご案内

日本共産党が毎月定例で行っている無料の法律相談です。どなたでもご利用できます。また、生活相談も合わせて行っています。

「事前予約制」です。ご希望の日時に電話予約をお願いします。

- 1月7日（金） 午後3時～5時
東区生活相談所（新生2-5-18ハイツふかだ1F） TEL 328-2656
- 1月19日（水） 午前10時～12時
中央区生活相談所（水前寺2-17-12桑村ビル201） TEL 285-6120
- 1月28日（金） 午後1時30分～4時
山本のぶひろ渡鹿生活相談所（渡鹿5-19-7） TEL 362-5181
- 2月8日（火） 午前10時～午後4時
さくら法律事務所（京町本町1-22） TEL 090-8667-3148
- 2月10日（木） 午後1時～4時
菜の花法律事務所（南区江越1-17-12） TEL 322-7731
- 2月21日（月） 午後6時～8時
北区生活相談所（武蔵ヶ丘1-10-1） TEL 338-2001

市庁舎建替え問題

日本共産党熊本市議会だより 2022年1月2・9日合同号 (No.1264)

市長の諮問機関「有識者会議」耐震性能分科会は公開すべき 「非公開」で出された結果に市民の理解・納得は得られません

12月議会の一般質問で、上野みえこ議員は、「市庁舎整備問題」で市長の諮問機関である「有識者会議」の耐震性能分科会が「非公開」で開かれている問題について質しました。

これが「非公開」の理由として通用するでしょうか？

「途中で違う意見が来ると、中立的な議論ができない」

分科会の「非公開」理由を、分科会長は記者会見で、「途中で情報発信して、それはそうではないという意見が来ると、尚更話がややこしくなる、中立的な議論を行う上でクローズドですすめる」と述べました。

すなわち、違う見解の意見が来ると中立な議論ができない

と説明しました。これには市民の理解は得られません。

一番問題なのは、非公開で「違う見解の意見は退ける」という分科会の姿勢です。民主的で公正な議論の土台を欠いた審議会であることを自ら表明しており、出される結果は決まっているようなものです。

科学的根拠に基づく結論は、どんな意見にも左右されない

そもそも耐震性能評価は、確かなデータに基づき、科学的見地から事実と真理を明らかにしていく科学的な作業です。公開・非公開で、事実が変わるも

のではありません。

科学は、事実や真実を解き明かしていくもので、隠すことは科学と真逆です。隠蔽は、真実や科学を歪めるものです。

隠された議論では、結論に市民の信頼は得られません

公開で生じる問題は、表に出したくない内容が外に出ることです。「非公開」の開催を知った市民から「どうせ結果は決まっているんでしょう」との声

が寄せられました。人は、やましいときに隠し事をします。非公開のまま分科会の出した結論に市民の理解や信頼は得られません。

耐震性能分科会の3人の委員は、同じ大学の関係者 これで適切な選任と言えるでしょうか？

公の審議会である耐震性能分科会委員は3人です。全員が同じ大学の関係者です。数ある研修者・数ある大学の中から、幅広く委員の選任を行わなかったのでしょうか。また、分科会委員3人は研究者

ですが、実践経験のある方ではありません。具体的な構造設計内容を検証する耐震性能評価に、構造の実践を積んだ専門家が1人もいません。構造設計の詳細部分は、経験者の意見を聞く必要が出てくるはずですが。

<耐震性能分科会委員> ★委員長は山田哲氏
【鉄骨構造・耐震工学】山田 哲氏 (現・東京大学大学院工学系研究科教授)
*2020年3月まで20年以上、東京工業大学に在籍
【建築基礎構造・地盤地震工学】田村 修次 氏
(東京工業大学環境・社会理工学院教授)
【鉄骨構造・耐震工学・非構造部材】吉敷 祥一 氏
(東京工業大学科学技術創成研究院教授)